

指導教員名	清水信年
-------	------

活動区分	高品質型	連携先	企業
	イベント企画型		

## ～ 神戸学生イノベーターズ・グランプリ (1-1グランプリ) ～

活動の様子

さんふらわあについてのシナリオ

さんふらわあ事件

11

取り組む課題

「若者向けカジュアルクルーズ」がメインテーマに設定された。主要顧客であるトラック運転手や物流需要と比べ、一般旅客は移動手段の多様化から苦戦しており、とくに若年層の利用率が低いのが課題である。近年、同社が提案している「カジュアルクルーズ」というコンセプトを若年層にアピールできる企画を提案することが、今回期待されたことである。具体的なサブテーマが5つ設定され、当科目の受講生はそのうち「さんふらわあ乗船記念になる新グッズ商品企画」「船内での新サービス及び船内イベント」に挑戦した。実際にさんふらわあに乗船し、到着地の大分県で観光調査を行なう機会も設けられた。

本学(学生)の役割

今年度の当科目受講生は3チームに分かれ、それぞれ先述の2つのサブテーマのどちらかに沿った具体的な取り組み課題を設定した。受講生の大半は商学部学生だが、各自の所属ゼミや関心分野は異なり、これまでにこうした商品企画提案などの社会共創活動を経験した者ばかりでもないため、まずチームビルディングから始める必要がある。一方で、多様な分野の学びや関心を持つ受講生がいることは発想の豊かさにつながる期待もできる。教員には、そのメリットをできるだけ活かしつつ、商品企画の経験の浅さやチーム力の弱さを補えるような指導が求められた。

企画・活動概要

流通科学大学が2009年より主催し、学園都市周辺の大学・高校が出場する社会共創活動のイベントで、毎年度、地元企業などにご協力いただき運営されている。今年度の協力企業は、関西と九州を結ぶ航路を運航する株式会社フェリーさんふらわあで、後述のように、若年層の利用促進を目的とした各種提案を学生が行なう内容のテーマが設定された。当イベントは、流通科学大学の学内外から様々な学びをする学生・生徒が挑戦するため、マーケティング論や経営学、経済学、芸術系や観光系の領域からも取り組みやすいサブテーマが設けられた。今年度の挑戦チームは35、参加者数は約160名だった。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

当イベントでは、中間と最終の2回のプレゼンテーション機会がある。2021年11月の中間報告会の段階では、当科目の3チームのうちいくつかのチームの提案に高い評価がされていた様子だったが、同12月の最終報告会では残念ながら決勝プレゼンに進出できたチームが無かった。そうした目に見える成果は得られなかったが、受講生各自にとっては、こうして実務家に対してプレゼンテーションをし評価される機会是非常に貴重なものであり、今の自分に足りない知識や能力について気づくなど今後の学びにもつながる要素を得られたことが、期末に受講生から提出されたレポートの内容からも伺えた。

経緯・背景・目的

清水が担当する実習科目「商品開発特別研究II」では、この1-1グランプリに毎年参加している。当科目は、商品企画(もしくは広くマーケティング関連の企画)に実際に取り組むことを通じて商学部の各科目で学んだ知識を実践的に活かせる能力に昇華させることを目標としている。以前は、特定の企業や自治体にご協力をいただき商品企画の提案をしていた年度もあったが、ゼミのようにもともとそうした活動に関心が高い学生のみが履修するわけではない当科目では、1-1グランプリのように他チームとの競い合いを通じて切磋琢磨できる場を用意することが学生のモチベーションにつながると考えている。

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>

商学部  
マーケティング学科  
教授  
清水信年(シズノブシ)

<関係者・企業等>

株式会社フェリーさんふらわあ

<専門・担当科目等>  
マーケティング論・製品開発論